

熊本地震

熊本市は22～23日、熊本市南区のアクアドームくまもとで災害時の車中泊避難の実証実験を初めて実施し、約50人が車内で一夜を明かした。参加者の動きを検証し、本年度中を目指す車中泊支援マニュアルの策定に役立てる。

市が、連携協定を結ぶ崇城大、コンサルタント会社「Bo-sai Tech」(熊本市)と企画。市職員や防災士、大学生らが避難者として参加した。参加者は22日夕に受け付け後、持病の有無などを申告する調査表を基に保健師の健康観察を受けた。夕食は協力して準備。お湯を注いで食べ

車中泊避難 一夜限り実験

熊本市 支援マニュアル策定へ

災害時を想定した車中泊避難の実証実験で、夕食を準備する参加者=22日、熊本市南区



られるアルファ化米と、発熱剤を使って温めたレトルトカレーを食べた。エコノミークラス症候群を予防するため、就寝前や起床後に体操や散歩の時間も設けた。

今回の実証実験では、車中泊避難の受け付けやタイムスケジュールを紙で共有するグループと、スマートフォンでオンラインシステムを活用するグループに分けて、参加者の動向などを検証。両方の有効性や改善策を今後分析する。

熊本市中央区の大学教員で防災士の安永愛子さん(42)は長男陽翔くん(7)と参加。「子どもが平時に車中泊を経験していれば、いざ地震が起きても安心できそう」と話した。

(横川千夏)